

コマツナの土壌病害回避へ向けた取り組み

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

法人A(草津市)は、軟弱野菜を中心に周年生産する大規模経営体であり、栽培品目の一つであるコマツナは、同法人の生産量、販売量ともに70%を占める重要な品目です。契約量を守るためには安定生産が必要ですが、近年、収穫直前に株元が腐敗する症状が発生していました。この症状はリゾクトニア菌によるもので、連作ほ場で低温期に発生しやすく、被害が深刻なほ場では単位面積当たりの出荷量が予定の4割程度に落ち込んでいました。そこで、この腐敗症状の被害を減らし、安定出荷ができるよう支援を行いました。



写真1 土壌還元消毒の様子

【普及活動の内容】

まず、栽培担当者とともに昨年の状況を振り返り、被害軽減に向け今年度に取り組む内容を検討しました。

- ① 重点対策ハウスと位置づけたハウスで、有機物を投入し土壌還元消毒を実施することを決めました。
- ② 重点対策ハウス以外でも被害を抑えるため、温湿度管理など気を付けるポイントを確認しました。

上記①、②の対策の実施に向け、社内で協議を重ね、準備を進めました。また、協議内容は社内で共有されるよう働きかけました。



写真2 重点対策ハウスの収穫直前のコマツナ

【普及活動の成果】

- ① 土壌還元消毒は8月の大雨の影響で予定より実施時期が遅れたものの、8月下旬～9月にかけて完了しました。消毒実施後の10月に播種したコマツナは、腐敗症状は見られず12月中旬に収穫できました(写真1、2)。
- ② 重点対策ハウス以外についても、ハウスサイドを開けて換気し、ハウス内湿度を下げたことにより、病害被害はなく、収量が向上しました。(11～1月の平均収量 3,873kg/10a、R 元年比128%)。

今後も法人Aが土壌消毒や温湿度管理の実施により冬期の腐敗症状を低減し、年間を通して安定生産ができるよう支援していきます。

◎対象者の意見

リゾクトニア菌による病害被害が減ったことで、収量が増えただけでなく、調製作業の効率が上がった。(代表者)